

<第4514回>

目的地：武奈ヶ岳・八雲ヶ原

担当者：白神

実施日：2024年8月12日(月)～13日(火)

形式：ペルセウス座流星群観察例会 テント泊

費用：¥2,510(JR大阪駅発着) ¥1,100(バス：堅田駅⇒坊村) ¥620(比良とぴあ入浴)

参加者：4名

行程：

12日(天気：晴)

JR大阪駅(7:45)⇒(8:34)堅田駅(8:50)バス⇒(9:28)坊村(9:45)→(12:00)御殿山手前冬道合流地点
[昼食](12:25)→(12:40)御殿山→(12:50)ワサビ峠→(13:30)武奈ヶ岳(14:00)→(14:45)

イブルキノコバ(15:00)→(15:15)八雲ヶ原[テント設営・夕食]就寝(20:00)

0:00～2:00頃まで流星観察

13日(天候：晴)

(5:00)起床・朝食・テント撤収(7:10)→(7:35)北比良峠(7:45)→(8:35)カモシカ台→(9:30)大山口
→(9:55)イン谷口(11:25)桜のコバ経由→(10:40)比良とぴあ[入浴](11:45)送迎バス→(11:50)比
良駅(11:56)→(12:32)京都駅[解散]

感想：

よく考えてみれば、真夏に武奈ヶ岳へ登るのも初めてで、坊村からテント泊装備を持って登るのも初めてでした。いやー真夏の武奈ヶ岳、恐るべし。思っていた以上に体力と時間を費やしました。それでも、夜に晴れることを信じて、一步一步前へ。振り返れば、サマーシーズンの蓬莱山や、穏やかな琵琶湖の湖面が見えます。

やっと武奈ヶ岳に到着して、ここからは多少のアップダウンはあるもの、基本下り。雲の流れを気にしながら八雲ヶ原を目指します。今から気をもんでもしょうがないのですけど。

八雲ヶ原には誰もおらず、我々はヤクモ池の畔にテントを張りました。夕食を摂り、やがて暗くなった頃、4時間後の晴天を祈りつつそれぞれのテントに入りました。

そして4時間後、テントから這い出ると、そこには満点の星空。よっしゃーと心の中で叫んだのは言うまでもありません。

さっそく三脚とカメラをペルセウス座方面にセット。シャッタースピード30秒でひたすらシャッターボタンを押し続けました。何十枚と夜空を撮りましたが、流星が写っていたのは2～3枚。それでも20個近くの流星を目で見ることができました。

本当のことを言うと、もっと沢山、明るい流星が見られることを期待したのですが、晴れて流星が見られたことだけでも幸運だったと考えるべきなのでしょう。

翌朝は夜露に濡れて重くなったテントを担いでイン谷口の下って行きました。

徐々に太陽も高くなり、逆に標高は低くなるので、体を感じる気温はうなぎ上り。もしかしたら、登山道を離れ、湖西道路をくぐったあたりからのアスファルトの道が一番しんどかったかも。

備考

8/31 現在、滋賀県県道322号線は土砂崩れのため通行止めになっています。SNS等では徒歩では通行可能との情報もありますが、レスキュー比良(イン谷口)の方からは、徒歩でも桜のコバ経由の道を通って下さいとのことでした。